

石工	木挽	家根職	煉瓦職	疊職	建具職	經師職	綿打職	鍛冶職	鑄物職	塗物職
九	八〇	四一	二	一四	一二	五	四	五五	三	四
五	七五	三五	二	一六	一二	五	八	五四	四	四
一、七〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	二、〇〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	二、〇〇〇
一、七〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	二、〇〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	二、〇〇〇

算すれば、之等は殆んど苦痛にならず、樺太に於ては十錢以下は切捨る等と云ふが、其れ迄に行かずとも、一錢位の釣銭は兩方にて譲歩するが普通なり。大泊の物價高しと云へども、萬事此流儀にて、一般に金廻り善きは事實なり。勞銀も内地に比して、二倍以上の高價なるを以て、其處は殖民地丈けに、生活は比較的樂なり。

大正五年の調査によれば、六月末現在人口二萬一千百八十一人、十二月末現在人口一萬七千五百九十三人にして、勞働者別及其勞銀を示せば、左の如し。

職業別	六月末	十二月末	十二月中(日給)	八月中(日給)
大工	一五一	一二五	一五〇	一五〇
左官	一〇	九	一七〇〇	一七〇〇



活版植字職	一	二	一、三〇〇	一、三〇〇
船大工	三四	三一	一、六〇〇	一、六〇〇
菓子製造	二二	二八	一、〇〇〇	一、〇〇〇
齋職	四	二	一、〇〇〇	一、〇〇〇
鋳力職	四	九	一、〇〇〇	一、〇〇〇
製鑪職	二五	七	一、〇〇〇	一、〇〇〇
理髮職	四二	三三	一、〇〇〇	一、〇〇〇
日傭人夫	一、〇八四	六七一	八〇〇	八〇〇
指物職	一	六	一、五〇〇	一、五〇〇
桶職	一	一	一、三〇〇	一、三〇〇
下駄職	一	一三	八〇〇	八〇〇

和服仕立 一 一六 一、二〇〇 一、二〇〇 男  
 洋服仕立 一五 一八 一、五〇〇 一、五〇〇  
 大泊の勞銀の高價なるは労働者にどりて悦ぶ可き事なりと雖も、  
 獨り大泊のみならず、樺太の労働生活者中、越年四ヶ月間は寢喰時  
 期なるを以て、此間の難關は覺悟せざる可からず。

豊原支廳

大泊より二十哩を鈴谷川に沿ふて、北に進めば、廣漠たる平原の  
 真中に一都市あり、豊原と呼ぶ。明治四十一年の八月、軍政廢止と  
 共に、樺太の中央政府たる樺太廳が此地に移され、同時に守備隊司  
 令部、郵便電信局、樺太醫院等も此處に集り、其他司法行政經濟教

日本人種の改良に何等の裨益する所なし、と、あいぬ人は友情濃かなれ共、數理の觀念殆んどなく、推考力乏しく、言ふ迄もなく下等人種なり。唯採る可き處は彼等の頑丈なる骨格にあり彼等は酒害に因りて氣力喪失し、衛生及醫療の智識の缺乏と、今來食物の變化とにより、體質愈々劣悪とな



亞庭灣內流米狀况

豊原は大泊、眞岡の如く、商業賑盛なる都市にあらずして、高尚なる官吏町なるを以て労働者の比較的は少なき所なるが如しと雖ども豊原町は近來バルブ製紙事業勃興して職工の需要を増し、又豊原町附近は開拓せられて、肥沃なる農牧地なれば農業も亦町を控えて好望なる所なり従つて勞力の需要も劇増せり。

今大正五年に於ける戸數六千二百人口二萬八千人の豊原支廳の職業別と勞銀を示せば左の如し。

職業別	六月末	十二月末	十二月中(日給)	八月中(日給)
大工	一三九人	一一九人	一、四〇〇	一、四〇〇
左官	一八	六	一、八〇〇	一、八〇〇
石工	二	二	二、〇〇〇	二、〇〇〇



靴	下	桶	指	日	器	理	製	鉢	鳶	菓子
職	駄	職	物	備	械	髮	罐	力	職	製造
			夫	人	職	職	職	職	職	
八	九	一	一	一、三九四	二	一六	二一	八	二五	二三
				一、二七七	一	一	五	一	一	二三
七	八	二	八	七						一八、〇〇〇
一、〇〇〇	一、三〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	八〇〇						一八、〇〇〇
一、〇〇〇	一、三〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	八〇〇						一八、〇〇〇 <small>(月給)</small>



船	活	塗	鑄	鍛	綿	經	建	疊	煉	家	木
大	版	物	物	治	打	師	具	瓦	瓦	根	挽
工	植	職	職	職	職	職	職	職	職	職	
	字										
	職										
六	一	一	二	一八	一	六	一四	六	一九	一九	七〇
三	一	二	五	九	三	三	一三	五	一	二五	五四
	二八、〇〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一、二〇〇		一、五〇〇	一、八〇〇	一、五〇〇	二、〇〇〇	一、六〇〇	一、三〇〇
	二八、〇〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一、二〇〇		一、五〇〇	一、八〇〇	一、五〇〇	二、〇〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇
	二八、〇〇〇 <small>(月給)</small>	一、四〇〇	一、四〇〇	一、二〇〇		一、五〇〇	一、八〇〇	一、五〇〇	二、〇〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇



馬具職	蹄鐵工	和服仕立	洋服仕立	染物職	車橋製造	女髮結	洗濯職	提灯職	時計修繕職	印判彫刻
一	四	一七	一二	三	三	五	五	三	五	三
二	四	一六	八	三	三	三	三	三	五	一
一	一	三〇〇	四〇、〇〇〇	一	一	一	一	一	一	一
一	一	三〇〇 <small>(女子)</small>	四〇、〇〇〇 <small>(月、男)</small>	一	一	一	一	一	一	一



料理人 四 五

炭山坑夫 六五

此外下男下女あり、其數を知るを得ざるも勞銀は下男賄付一ヶ月十圓、下女一ヶ月五圓なり。序でに主なる物價を調べれば、米中等一石十五圓、清酒一石(島内産)三十一圓、醤油一石三十七圓、味噌十貫目三圓八十錢等の低廉なる相場を保ちつゝあり。

豊原支廳に於ては百姓にて成效せる者多し。大正四年の調査にて全島の農業者は戸數四千四百九十三戸、人口一萬六千八百二十七人の中、豊原支廳には千七百四十六戸、六千七百七十七人ありて、農業者の多き事他の支廳の首位を占む、是等の人々が樺太に於て如何なる作付を爲すかと云へば、大麥、稗麥、小麥、燕麥、ライ麥、蕎麥、



種	類	大泊	豊原	眞岡	久春内	敷香	計
小	麥	三、八〇〇	三、五〇〇	一、一三〇	五、〇九八		一、八三六・九八
燕	麥	四、五九〇・九八	一、八、五九〇・九八	一、四、三九一・〇〇	一、六、五五〇・八〇		三、九、二四二・一六
ライ	麥	一、〇三〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇	一、一五〇・〇〇	七、〇〇〇		二、八六〇・〇〇
蕎	麥	一、五九〇・〇七	一、六八〇・五〇	一、八三三・三三	一、八、七三三		五、三、三二・六〇
菫	豆	六、五九〇・〇〇	一、〇三三・三三	一、八六六・三三	一、九、四〇〇		三、六、九七・八八
菜	豆	一、二二〇	一、〇一〇	九	九七		三、六、九七・八八
蠶	豆	七、〇八〇	三、〇七二	三、五七・二六	四、七・八八		四、七、六五・九九
薯	薯	一、〇〇〇	三、四七・七六	三、六三・三三	一、六、七三三		一、四、五・八八
馬鈴薯	薯	八、二〇〇・六七	一、〇三〇・〇〇	一、〇八四・三三	一、七、三〇〇		一、一、九六・九三
雜穀	穀	一、三九〇	四、〇三三	五、〇〇〇	二、〇〇〇		四、三、三二・三三
		一、六六〇	九、〇六六	一、〇〇〇	九四		一、〇、七二・〇七



豌豆、蠶豆、馬鈴薯、雜穀、蔬菜等にして、農産物の總價額二十四萬七千五百五圓を算す。  
 新開地の農業は、一本の資本を以て掛る仕事なるを以て、初期に苦痛多きも、三年五年を辛抱すれば、後は左團扇と云ふ裕福なる生活を送り得べし。


農作物收穫量 (支離別) 大正五年

種	類	大泊	豊原	眞岡	久春内	敷香	計
大	麥	三、三六・一九	五、三三・三三	六、五二・二六	五、〇二六		一、一、五〇・九八
裸	麥	二、六八六・六五	三、五五〇・七四	七、〇五五・四三	一、四、四八・七四		一、〇、七二・〇七
		一、〇一八	一、〇一四	一、三三三	一、〇二〇		二、七、七二・五五










十戸、人口約四千人、之を豊原、大泊に比較して、一籌を輸する所ありと雖も、水産工業の發達と共に近來目覺しき發達を爲し、尙其町の發展は、其地の水産、工業の發展と共に洋々たる前途を有するものなり。


元來眞岡は漁業を中心として發達したる町なるを以て、住民には漁師根性なる覇氣の漲を見るなり。全島中最も活氣を帶たる市街は眞岡なる可し。宵越しの金を持たぬと云ふ江戸子氣風ありて漁業大當りの時は、慰安休息の名を藉りて消費する者多く、料理屋は爲に大繁昌する所なり。料理屋、藝者も、社交、商路上利用する機關として、此必要に應ずるのみにて相當營業の立つものなるも、唯眞岡のみならず殖民地の料理屋、藝者は此弱點に乗じ、より以上の




發展を試みる。眞岡に移住若しくは實業的驥足を伸さんとする者は先づ此邊の臍を固め慰安休戚の唯一方法としては、善美なる家庭の和樂を以てし、多年の努力と丹精によりて、小を積みて大を成す事を心掛くるは第一なり。

眞岡支廳全體の六月末現在人口は九千七百五十五人十二月末現在人口八千二十三人と云ふ大差あり、是漁獵町なるを以て冬期に至れば北海道内地に一時歸宅する者多きに因る。其職業及勞銀の如きは大泊と大差なし。主なる勞働者は大工、左官、木挽、日傭人夫、船人夫等にして、千三四百人の勞働者あり。

之を要するに、勞働者の賃金は之を内地に比較すれば、實に二倍の高價にして、一目して勞働者の不足を知るに足る可し。今や内地



に於ては時局の關係上勞力の過剰に苦まざるも、一度平和克復せんか、財界の不振は、延て勞働者の過剰に苦しむ可く、政府は戦後の經營に萬遺洩なきを期する爲め、莫大の國庫金を投じて、種々の調査に餘念なしと雖も、是れ多くは對外策に過ぎず。對外策決して輕んず可きに非ざるも、戦後勞働の過剰に苦まざる可からざる、勞働者の保護に就て今より充分に調査考究を爲す必要あり。樺太は我極北の寒地人口稀薄なりと雖も、邦領なり。北米、南米、南洋其他の殖民地に於て迫害を加られつゝある我進取的民族が先づ此手近なる我領土に殖民すべし。必ずしも南方のみは吾人活動の天地に非ざるなり。今や北方の地は水産礦業に獨、英、米等の事業家が、食指を動かしつつあり、又日露の漁業協約は次年は既に契約満期の年とな



りて大に我邦人の權利を主張すべき時期來れるなり。北方領土の問題亦閑却すべからざるの秋なり。

### 樺太の産業

本島に於ける産業としては漁業、農業及牧畜、林業、鑛産等である而して本島漁業中鱈はその第一位を占め、産額は年々三百萬圓餘を呈してゐる。これについては、鱈、鮭、鱈、鱈、昆布、蟹、海鼠、海扇及北寄貝、捕鯨、臘豚獸等であつて何れも多望なるものである。農業及牧畜も領有當時に比して非常なる進歩發達を遂げ、好成績なることは現今著しいものである。作物としては大麥、小麥、裸



麥、ライ麥、燕麥、馬鈴薯、豌豆、蠶豆、大麻、蕓苔、牧草、及根菜、葉菜等の蔬菜にして、西海岸南部の如き比較的温暖なる地方にては稻藜、玉蜀黍、大豆、小豆、菜豆等も成熟するのである。

牧畜は、單に氣候、地勢の適せるのみならず、農業には有畜組織を採り、農民には家畜を貸付し、或は其家畜の購入を補助し、或は種畜の無料種付をなす等、専ら奨励に努めたる結果、家畜を飼養するもの漸次多きを加へ、これが利用の途も漸く増進するに至つたのである。


また本島に於ける獵獲物の主なるものを記せば貂にして、本邦にありて固より他に比類を見ず、之については麝香鹿、獺、狐等である。




林業は、その林野面積約三百二十五萬町歩餘にして、本島全面積の九割にあたり、樹の種類は榎松、蝦夷松、樺太落葉松の三針葉樹を主として白樺、山橙、柳類、榆類、花楸樹、白楊等である。而して、その木材の利用法は、乾留工業、パルプ工業、製材業等にしてこれまた前途の有望なるは人の疑はざるところである。

鑛産としては、石炭及砂金を其の主なるものとして、其他の有用鑛物並に石材等が産出せられるが、本島の大部はいまなほ精査の運に至らざるも、今後調査の進行と共に大に本島鑛業の進運を見る事が出来ると思ふ。

### 有利なる樺太の養狐業



近年彼の毛皮類が衣服の料としてまた裝飾の具として文明人の歡迎するところとなり、就中、樺太における狐の毛皮は防寒具として最も實用に適し、其毛の優美なるものは以て裝飾用とすることが出来るのみならず、其珍なるものに至りては實に一匹數百圓に値するものが稀でない。古來所謂千羊の皮は一狐の腋に如かずと云はるゝほど貴重なるものである。近時狐の毛皮があるひは襟巻に或は外套に或は敷物に需用著しく増加し來つたことは、夙に世人の熟知するところである。従つてその旺んなる需要に對し天然に産出する狐を捕獲するのみにては到底これに應ずることが出來ない。而かも、さまりなき文明の進歩と人口の増殖に由る閑遠境裡の破壊とは、彼等狐の棲息に安全なるを得ず、年と共に漸その棲息を不可能にし、



産額を減少する傾向を見るに至つたのである。ために需要供給その平衡を失して價額が頻りに暴騰し、品物はいよゝ缺乏して來たのである。此において乎、狐の毛皮も依然として之を天然産出の狀態に放任して措くこと能ず、或は禁獵區域を設定して自然的繁殖を企てるとか、或は飼養場を設備して人工繁殖を計るやうになつたのである。

いま樺太で産出する貂、獺、狐、熊、馴鹿、麝香鹿、木鼠、海豹、山猫、兎、海驢、窟狸等十二種の獸皮につき、明治四十三年以降數年間に於ける總産額の消息を見ると、左記の如く大體において年々減少の傾向を示してゐる。



年次	枚数	總價額
明治四十三年	一〇、五七六	二〇、九五二 <small>円</small>
同 四十四年	一二、三九一	九八、九五七
大正元年	四、六五六	四五、一六三
同 二年	六、五九九	五四、八九〇
同 三年	八、一七〇	二四、〇一六
同 四年	二、一五八	一〇、二〇〇

即ち四十三年の二萬餘圓が四十四年には一躍九萬八千圓に上り  
 大正一二年度には各四五萬圓の間を往來してゐたのが、翌三年度に  
 至りては枚數において増加せるにも拘らず、にはかに二萬四千餘圓  
 に減少してゐる。これは貂と麝香鹿の産額が著しく減少したのが



固より一因をなしてはゐるが、また歐洲戰亂のため輸出杜絶して市  
 價の低落したのと、これをみて捕獲を手控へした事が主なる原因を  
 なしてゐるのである。然し乍ら歐洲戰亂の終局と同時に、その反對  
 に暴騰することは明である。何れにもせよ此の價格は原産地に於  
 ける市場で頗る低廉なるものであるが、これを内地の東京大阪なり  
 或は更に歐米の市場へ出すときは、二倍にも三倍にも價格が上るの  
 である。

ここに各種狐の産地ならびに産出額に就き「イ、プラス」氏の  
 調査せる所を擧ぐれば、大概左の通りである。但し産出額は枚數を  
 以て示す。

(ア) 赤 狐



- 北亞米利加——二〇〇、〇〇〇
- 西比利亞——六〇、〇〇〇
- 露西亞——一五〇、〇〇〇
- 西部及中部亞細亞——五〇、〇〇〇
- 獨逸——二五〇、〇〇〇
- 蒙古、支那、日本——五〇、〇〇〇
- 奧太利亞——三〇、〇〇〇
- ノールウエー——二五、〇〇〇
- 其他歐洲諸國——三五〇、〇〇〇
- (イ) カラガネ狐
- 西比利亞及中部亞細亞——一五〇、〇〇〇



- (ウ) 十字狐
- 亞米利加——一五、〇〇〇
- 西比利亞——三、〇〇〇
- (エ) 灰色狐
- 北亞米利加——五〇、〇〇〇
- (オ) キット狐
- 北亞米利加——五〇、〇〇〇
- (カ) 白狐
- 亞細亞——七〇、〇〇〇
- 亞米利加——三〇、〇〇〇
- 北部歐羅巴——一、〇〇〇



(キ) 銀黒狐

亞米利加——四、〇〇〇

西比利亞——三〇〇

(ク) 日本狐 (ラックーン、ドック)

日本——八〇、〇〇〇

支那——一五〇、〇〇〇

朝鮮——三〇、〇〇〇

(ケ) 南米狐

バンバス及バタゴニア——一五、〇〇〇

以上「イブ、ラッス」の計算によれば、一ヶ年間に世界の市場に現出すべき狐の毛皮は百五十八萬三千三百枚に上るのである。もとより



年によりて、此數に異動あることは免れなす。

毛皮の價格は、倫敦の如き中央市場に於ても變動あることは止むを得ないことであるが、北部加奈陀産赤狐一枚の毛皮が倫敦に於て八十圓乃至百六十圓を唱へられて居る。若し夫れ黒狐若くは銀黒狐皮に至りては、著しく高價にして赤狐皮に比して數倍或は十數倍するものがある。

とにかく獸皮の價額は尙年を遂ふて騰貴すべく、樺太に於ける養狐業は純然有利なる企業として、産業上にもその一大地を保つことが出来る有望なるものである。

### 樺太のバルブ事業

上野 潤二



本島に於けるバルブ事業は現時いちぢるしく其盛況を呈すると共に、尙且つ洋々たる將來に於ても大いに有望なるものである。

其以前内地の事業家は、將來は有望であるが現在は何等の利得もないといふので誰も手を出す者がなかつた。けれども時の長官平岡定太郎氏は此事業の必要にして且つ有望なることを認め、内地の資本家に向つて、種々利益のあることを力説した末、三井物産會社の某が條件を附してバルブ事業を起さんといふ申込により、三井をして一定地域の森林の伐採を認可する事にしたのである。其他平岡長官は大川平三郎氏を説きつけて該事業を開始せしめたのである。其後落合にもバルブ工場を起す計畫があり該事業が漸く事業界に認めらるゝに至つたのである。かくて三井がバルブを市場に販賣するに



至つて其の價格は非常に騰り天下翕然として當業者に稱賛せられ殊に歐洲戰亂の結果一ポンド四五錢のものは遂に七八錢となり、製品もまた世界市場に販路を得、優に他國の製品を凌駕するに至つたのである。

このバルブ事業については時の長官平岡定太郎氏の力に預つてゐるところも少くないが實に今日の盛況を呈するに預つたのは、現在日本化學紙料會社の専務即ち塚越卯太郎氏である。氏の卓絶せる智力と熱誠なる努力とは結晶して終に樺太「バルブ」事業の祖を開き、單り日本化學紙料株式會社をして今日の盛運を勝ち得るの偉業を奏せしめたるのみに止らず、惹いて斯業の勃興を促して樺太發展の上に至大なる力を與へたのである。これ實にバルブ事業の功勞者で



あり成功者であるといはねばならぬ。

### 樺太の衛生状態

樺太は氣候寒冷の爲めに、内地や熱帯地に比して傳染病は至つて少ない。脚氣なども非常に少ないから移住者にとつては、この點に付て何ら心配することはない。偶々あつてもそれは極輕症のもので心臟性脚氣の如き重症のものは殆どその例を見ない位である。脚氣の病源は、未だ判然しないが、土地が變ると發生するやうである。而してこの樺太の脚氣が内地と異なるは、其發生する時期を異にしてゐる點である。内地にあつては夏と秋とに多く冬期には至つて少

ないが、樺太では四季を通じてあるのである。殊に冬多く發生するやうである。併しこの地の脚氣は心配に價するやうなものではないが、胃腸病はかなり多いやうであるから油斷は出來ない。各自注意が肝要である。

豊原廳立病院の統計によると、毎年經費が三萬五千圓の豫算を計上してゐる由である。患者数は男が三、三四六人、女が三、三三八人（大正五年中）之は延人員ではなく發生實數である。其内死亡者は百四十八人あつたやうである。

本島で最も多いのは、小兒の死亡率である。之れは氣候の關係もあらうが育兒法の如何によるものが重大原因を爲してゐるやうである。氣候が寒いからといつて病氣について心配することはない。内



地の寒暖計と本島に於ける寒暖計とを比較して一概に樺太は寒いと速断するのは誤りである。これは人體の皮膚に調節作用があることを忘れたものであつて、氣候がいくら寒くても皮膚で温度の調節をやるものであるから、必ずしも寒地は身體の弱い者に悪いといふ譯はない。實例によると、呼吸器を患つて居る或る七八歳の少女が、樺太のやうな寒い所は病氣にとつて非常に悪いと言はれたにも関わらず、同地に居る父の命によつて悪い筈の樺太へ行つたところが、病氣は反對にめき／＼良くなつて遂に元の健康に復し學校へ通つたといふ話もある。

尙藥價なども内地に比して甚だ安いやうである。

## 通信事務の進歩

樺太に於ける郵便事務は、領有當時より此方諸種の産業の振興、移民の増加に伴ひ、通信事務の輻輳を加へ來りて、年々尙發達の趨勢にあるから、之れに應じて通信機關の改善も著しく歩を進め、いままでは内地人の一部から氷上に熊の走る未開の國と思はれてゐた樺太にも、文明の利器を通信機關に應用してゐるので、其設備の點などから云つても、内地の郵便局と殆んど異なる所がないといつてもよい位である。唯道路の不備その他の交通機關が今尙改善の計畫中で、目下少しく交通不便のため郵便物の配達等おくれる事があ



り、通信事務の要素たる敏活といふ點に些か缺點があるのは遺憾であるが、これも必ずや近き將來に完備することゝたがひない事實である。

野戦郵便局時代には其局數も僅に四ヶ所であつたが、今日に於ては其數實に三十六ヶ所の郵便局が設けられてゐる。今普通郵便物の取扱數を統計表について見ると、明治四十年に野戦郵便局から其事務を引繼だ當初は、本島より発信したるもの、百二十八萬三千通であつたのが、年々大凡五十萬通宛を増加して、大正五年度には五百二十六萬三千餘通に達するやうになつたのである。受けたものは四十年には百三十九萬四千通であつたが、大正五年には六百四十五萬餘通を示して居る。



小包郵便物も四十年には島内より發したるものが僅に七千餘個なりしも、大正五年には三萬五千餘にまた受けたるものは二萬四千餘より九萬三千餘に増加したのである。

電信は、本島が概ね交通不完全の場所多く、ために普通の郵便にては急用を辨ぜざる場合が多いので、いさほひ電信事務も非常に頻繁である。いま電報と戸口との關係をみるに、大正四年度は一人に對して發着共四通といふ割合で、内地の平均一人當り〇・六に比すれば約六倍に相當するのである。其取扱實數を調べれば大正五年度には發着信合計三十萬通以上で、之れを四十年に比較すれば三倍に増加してゐる。

また國際電信線は、豊原とアレキサンドル間に直通してゐて、樺

太及北海道より西比利亞を經由して、露國方面にゆく電報を取扱つてゐる。

### 樺太に於ける著名なる商店

豊原 には金物、機械類、農具其他の諸雜貨を商ふところの、本店を北海道札幌に有せる清水商店樺太支店を筆頭に、米穀雜貨商佐藤商店、江戸ッ子吳服店、佐々木商店豊原支店、また全島の教科書特約販賣店として、藥種商小間物化粧品、圖書雜誌の販賣を併業する若林商店等がある。

大泊 には佐々木商店の本店をはじめとして、旗亭の、榮亭、岡

野屋、樂生堂病院、大戸商店、丸善菅谷合名會社樺太支店、松井萬吉堂、豊田善一商店、小瀧商店、高梨商店、宮島商店等何れも大泊に於て著明なるものである。尙此地には實業家として有名なる田邊庄次郎、安羅五右衛門の二氏が居を構へてゐる。

眞岡 には藤森合名會社をはじめとして、田中惣左衛門氏の經營する田中合名會社、旗亭進明亭、北洋軒、旅館董館、丸メ百足家旅館、料理屋常盤、小森商店、合名會社の眞岡鐵工場、西谷回漕店、三井金物店等がある。其他平井鶴次郎、森本米太郎、刀根彌市の諸氏がそれぞれ發展してゐる。

是等はみな樺太商業界に雄飛する主なるものである。

小樽函館を  
起點とする 樺太航路汽船發着表

▽北日本汽船會社航路

樺太西海岸線

○大禮丸。小樽起點。一ヶ月三回發。寄港地、大泊、真岡、野田

寒、泊居、久春内（復航本斗寄港）

○天祐丸。函館起點。（自四月至十一月）一ヶ月二回發。寄港地、小樽、海

馬島、本斗、真岡、蘭泊、野田寒、泊居、名寄、久春  
内、萌菱、鵜城、惠須取、北名好、安別

○幸成丸。函館起點。（自四月至十月）一ヶ月二回發。寄港地、小樽、海馬

島、南名好、本斗、廣地、真岡、蘭泊、野田寒、泊居  
久春内

樺太西海岸線

○土佐丸。真岡起點。北部一ヶ月三回。寄港地、蘭泊、歌友、唐

佛、野田寒、追手、泊居、名寄、久春内、牛毛、萌菱  
留久志、圓度、鵜城、惠須取、北名好、（内二回は鵜城  
止めとす）

真岡起點。南部一ヶ月二回。寄港地、廣地、大穂泊、  
阿幸、本斗、内幌、南名寄、武意泊、宗仁

樺太東海岸線（樺太廳命令航路）

○二見丸。函館起點。（自五月至十一月）一ヶ月二回發。寄港地、小樽、大

泊、長濱、富内、野寒、榮濱、東白浦、元泊、東間串  
敷香、散江

○筑後川丸。小樽起點。(自四月)一ヶ月二回發。寄港地、大泊、長濱、富内、榮濱、東白浦、元泊、敷香、散江、海豹島  
舟泊、遠内

○吉辰丸。函館起點。(自五月)一ヶ月二回發。寄港地、小樽、大泊、長濱、富内、榮濱、東白浦、元泊、東間串、敷香、散江

### ▽日本郵船會社航路

日本郵船會社の樺太航路は遞信省の命令航路で年中往復してゐる

十二月より翌年の三月に至るまでの冬期間は、樺太廳の命令航路となつてゐる。同航路に使用する汽船は上川丸と弘前丸の二隻で、共に碎氷装置を有して居る。西海岸は真岡を終航地として、東海岸には廻航しない。上川丸、弘前丸共に函館を起點として、一と六の日に發航す。但し各期間に於いては十一月には月六回、十二月には月二回、翌年の一月より三月迄は月三回定日に發航す。  
寄港地は兩船共、函館、小樽、大泊、本斗、真岡にして北日本より寄港地少し。

往航大泊、真岡兩地發及び復航大泊發は荷役の都合に依り本定期より二十四時間以内延發することあるへし。隨て此場合には次港以下函館迄各地着發を二十四時間以内順延することあるへし。









本書は南米に渡航發展せんとする諸士の爲には暗夜の燈臺であら。全一冊定價七十錢、中特價送共六十錢、高評十版新形頗美本南米現況寫真十頁挿入内容豐富類書中。白眉當分の中特價送共六十錢

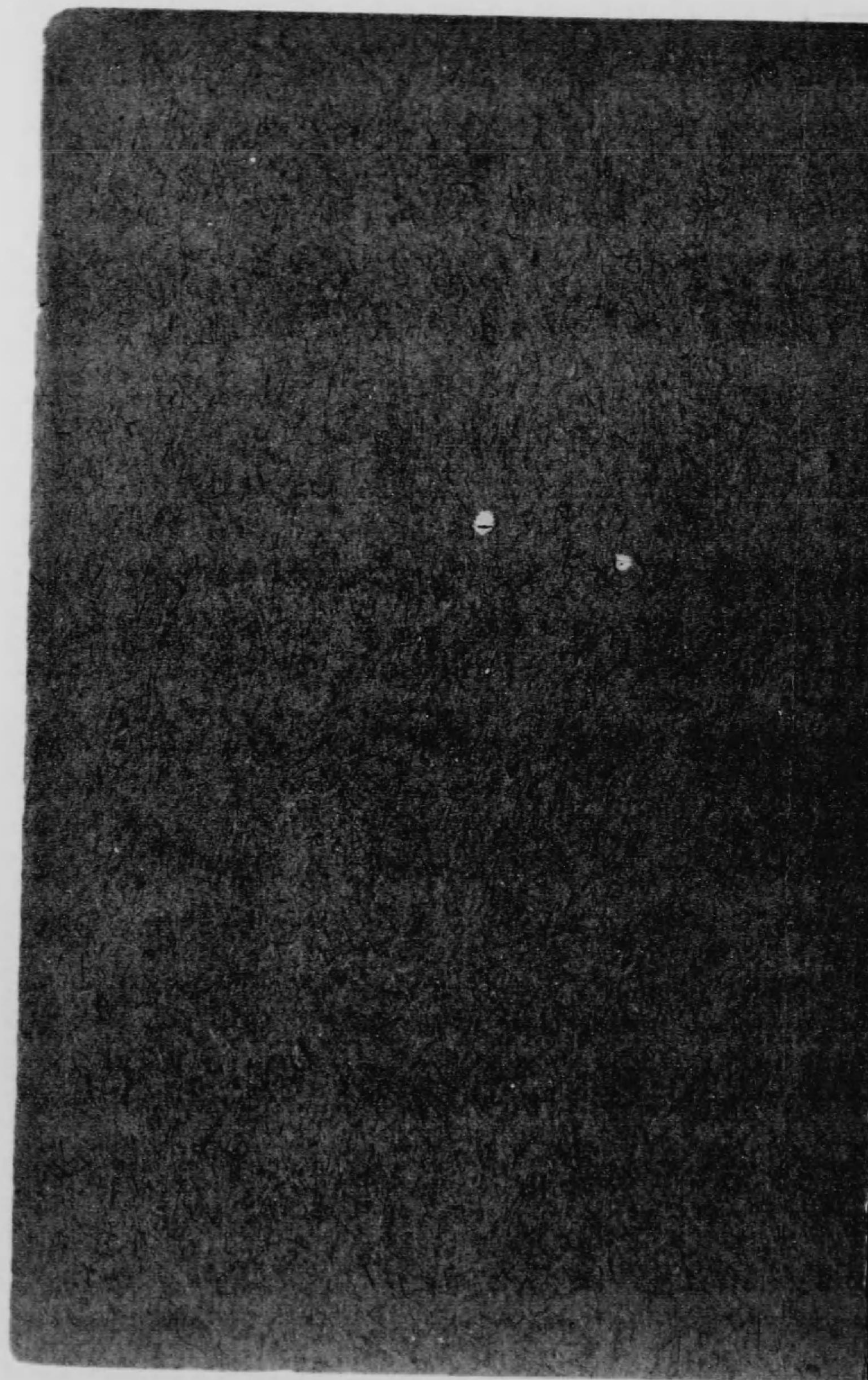
# 致富南米移住法

南米語は何國語か 移民會社はどんな者か  
南米コロンビア國 南米其他の諸國...  
移民渡航と單獨渡航 旅券及渡航券下附願  
日本も南米迄の渡航せらるるを最も安全とす  
事情を詳細の上渡航せんとするの士は是非讀まねばならぬ有益書である。御注文は現況を詳細に依りし南米  
の大發展を企圖せんとするの士は是非讀まねばならぬ有益書である。御注文は現況を詳細に依りし南米  
とす切手代用は二錢切手に限る

## 河上禎之助先生著

### 獨習英語早まなび

會話をなし得る様に講述せるものなれば新に英語を學ばんとする人は勿論現に學びつゝあるに  
人にも此上 發行所 東京市京橋區南橋本三丁目三番地 友社 發行所 東京市京橋區南橋本三丁目三番地 友社  
▲ラ音の特別な規則一般の文法品詞▲音と組合は方  
▲アルファベット規則一般の文法品詞▲音と組合は方  
▲ラ音の特別な規則一般の文法品詞▲音と組合は方  
▲アルファベット規則一般の文法品詞▲音と組合は方



374  
884

終

